

わたしの光のいえ”
ピースハウスふれんず”

March 2019

Issue Number 24



ごあいさつ	3
ピースハウスの役割	4
ホスピスで学ぶ	5
ホスピス国際ワークショップ	8
ホスピスケアを受けるために	10
ピースハウス活動報告	11
ホスピス教育研究所活動報告	12
ピースハウスを支える活動	14
ご支援のお願い・寄付報告	15



シンボルツリー：花水木

ごあいさつ

神奈川県西の地、富士山がよく見える丘の上に日本で最初の独立型ホスピスとして、ピースハウス病院が開設されてから25年が経過し、「日野原記念ピースハウス病院」として新体制で活動を開始してから3年が過ぎました。地域の医療機関の相談室、また、患者さんご自身やご家族からホスピス利用についてのたくさんのお問合せをいただき、ケアを必要とする方々にタイムリーにご利用いただけるようスムーズな対応を心がけてきました。また、最近、在宅で療養をされる方も多くなりましたので、病院と訪問看護ステーション中井が協力して支援していくことにも力を入れています。ピースハウス病院の活動をご支援くださる多くの方々に感謝申し上げます。

このように皆さまのニーズに応え、緩和ケアを行ってゆく継続力の一つに登録80名を超えるボランティア活動の豊かさがあります。400以上ある日本の緩和ケア病棟のうち81名以上のボランティア登録がある施設は2%に満たないとも言われますが、ピースハウス病院では開院以来多くのボランティアとスタッフが協働してケアにあたってきました。

その活動の内容も多岐にわたっています。入院生活を少しでも快適に過ごせるようにと、毎日のティータイムには細やかな気配りをしてくださり、入院中の患者さんやご家族の憩いの時間ともなっています。また、絵と書・音楽・俳句など、ボランティアの特技を活かしたプログラム、そして、園芸、美容、マッサージ、理学療法などの有資格者も専門的な技で参加してくれています。

ピースハウス病院で、また、在宅で療養生活を送る患者さん、そしてご家族や近しい方々が、少しでも豊かな時間を持つことができるように、スタッフ、ボランティアが力をあわせてその技を使ってゆくことを期待しております。

2019年3月

一般財団法人 ライフ・プランニング・センター
理事長 道場 信孝

ピースハウスの役割

理 念

ピースハウスはやすらぎの家である。ここで時をともにする人は皆それぞれの生き方を尊重する。

基 本 方 針

- 1) 痛みなどの心身を悩ます不快な症状が緩和され、患者と家族がその人らしく時を過ごすことができるように、患者と家族の希望する場において、全人的ホスピスケアを提供する。
- 2) 愛する人を失う悲しみや、その他の心身の反応は自然なことと考え、ケアを始めた時から死別後まで、家族への支援を行う。
- 3) 患者と家族のニーズに応えるために、多職種の職員とボランティアでチームを構成し、協力してケアを提供する。
- 4) 日本の実情に即したホスピスのモデルとなるように、より良いケアの実践、研究、教育を進める。

2016年4月1日改定

日野原記念ピースハウス病院再開後3年が経ちます。この間、最小限の陣容・人員ながら利用者である患者・家族に過不足のないケアを提供することを目標に活動してきました。

最近の患者満足度調査や職員満足度調査では、理念や基本方針、使命に沿った活動ができている、必要な時に待たずに利用できる、病状やケア内容に関する医師や看護師の説明は理解しやすい、病室は生活しやすく快適である、他の人にも当院の利用を薦めたい、などについては高い評価が得られています。

一方、業績評価、報酬基準、部署間連携、情報伝達、職務権限分与、福利厚生、安全確保、職場の雰囲気などについては検討、改善を促す値が示されています。また、食事や、薬の説明、医療費などに関する意見・要望も寄せられています。ケア方針の決め方については、もっと患者・家族の意見を取り入れてほしいという声もあれば、あまりにも患者・家族に任されてしまうので戸惑うという意見もあります。

今後も当院の活動をより良く継続してゆくためには、変化する社会における役割を問い直し、構成員一人ひとりが互いの多様性を尊重しつつ、経営に関わることを含め多岐にわたる主体的、積極的工夫を積み重ねてゆく必要があると考えます。

日野原記念ピースハウス病院
院長 西立野 研二

ホスピスで学ぶ

1993年、ピースハウスが独立型ホスピスとして活動を開始したとき、ホスピスケアを提供する実践の場とともに、ホスピス教育研究所を併設し、教育活動を当ホスピスが担う重要な役割と位置づけてきました。ここでは、ピースハウスにおける教育活動に目を向けてみます。



臨床から学ぶ

臨床の場は学びの宝庫。「あれ、何か変、これでいいのかな。これ何？」現場で遭遇した戸惑いや疑問を大切に、一緒に働く人とともに考え、テキストを紐解く。問題意識を持って学びを深めていく。

【毎日開催するチームミーティング】
多職種の意見交換で視野が広がっていく

教えることから学ぶ

講義を聴くだけでなく、自ら講義を担当する。そのための資料の準備、講義方法の工夫、参加者を前にした講義の実践、教えることからの学びは大きい。

緩和ケア講座、ボランティア講座、Study Day さまざまな教育プログラムにおいて、各専門職が、それぞれの力量、責任に合わせて担当します。

【緩和ケア講座で講義を担当する看護師】
参加者からのフィードバックは仕事のやりがいにも繋がる



Peace House Nursing Cafe

日時：2018年 1月25日(木)
17時30分～18時30分

場所：ピースハウス病院デイホール

お茶とお菓子をいただきながら、
「看護の物語り」執筆の体験を分かち合い、
それぞれのホスピスでの日々について
自由に語り合う会を企画しました。
皆様のご参加をお待ちしています。



ホスピス看護の物語り

看護師として出会った患者さん、ご家族、たくさんの思い出をいただきました。お一人を選んで、その時の自分の気持ちに焦点をあてて綴ってみる。自作の物語、同僚の物語を読み、あらためて気づくことが多い。

ピースハウスでは現在80名のボランティアが活動しています。ホスピスのボランティアとして、チームケアの一員として、学習を続けています。



ボランティアを始める

活動のスタートは、「ボランティア養成講座」の受講から始まります。

ピースハウスの理念、ケアの基本を学んだ後に3日間の体験実習、そのうえで、ホスピスにおけるチームケアの意義や重要性について学びを深めます。

講座終了後、3ヶ月の見習い期間を経て、正式なボランティア登録となります。

【ボランティア体験実習後のわかちあい】
活動への不安と共に、期待が膨らむ

ボランティアを続ける

ホスピスで活動するボランティアは、「アドバンス講座」に参加し、学びを続けます。日頃の活動から学習が必要なテーマを選択し、自分たちでプログラムの企画もします。看護師などの専門職に講義を依頼し、学びの場を共有することで専門職との相互理解が深まり、チームワークが育っていきます。

【看護師の実技指導は厳しく、楽しく、役に立つ】



仲間に出会い、仲間から学ぶ

「アドバンス講座」では講義を受けるだけでなく、活動についての意見交換も大切にしています。活動日を越えて、いろいろな人に出会い、異なる意見に耳を傾けます。

専門的な技や資格を持つボランティアが講師となることもあります。その知識や経験の豊かさに、驚き、感動します。

【特技ボランティアの講義】
ホスピスにおける理学療法の目的を学ぶ



一般の方にホスピス緩和ケアについて知っていただくため、将来のことを考え、自ら治療や療養の場を選択する準備ができるよう健康なときから考えていただくために。ホスピス見学会や市民講座など、一般市民の方を対象とする教育プログラムを開催しています。

ホスピス見学会

「ホスピスが明るくて、笑い声や子どもの声も聞こえて驚きました」「医療者の真摯な態度やボランティアの働きの大きさが印象的でした」参加者からホスピス見学の感想が寄せられます。直接見ていただき、質問やご意見をいただくことで、私たちもこれからのケアのあり方を学びます。



町の公民館にて

病院がある中井町健康課との共催で「住み慣れた地域で よりよく生きるために」をテーマに市民講座を開催しました。

ホスピスで働く医師や看護師らが公民館に出かけ、地元の方々と共にこれからのことを一緒に考えます。

人々の暮らしの場で、時を共にする。地域に支えられたホスピスであることをあらためて実感します。

講義の後は、「もしものときを考える」をテーマに、カードを使っでのグループワークです。真剣な話し合いの中に、楽しそうな笑い声が聞かれます。これからのことを身近に一緒に考えていくことの大切さに気づきます。

共に学ぶ喜び、楽しさ、充実感に満たされた経験でした。



ホスピス国際ワークショップ

25年前、ピースハウスが開院して3ヶ月経過したばかりの12月29-30日、イギリスのホスピスから医師と看護師を招聘し、第1回国際ワークショップを開催しました。「一年中お忙しい先生方にとって年末・年始は参加しやすいのではないか」という日野原重明先生のご提案で、1月3-4日に開催したこともありました。お盆もお正月も関係なくお仕事をされる日野原先生らしいご提案でした。日本各地から緩和ケアに関わる多職種の参加があり、国際交流の場を積み重ねてきました。

年度	テ ー マ	講 師	
1993	末期癌患者の疼痛緩和及び 症状のコントロール	英	Andrew Martin Hoy, M.D. Wendy Frances Hoy, R.N.
1994	末期癌患者の疼痛緩和及び 症状のコントロール	英	Robert Twycross, MA DM FRLP, M.D. Kate Escalona, R.N.
1995	施設内および在宅における末期患者と その家族への対応	米 NZ	Scott W. Eberle, M.D. Janet C. Davidson, R.N.
1996	癌の終末期患者とその家族への対応 -ターミナル各期のマネージメントの実際-	英	Andrew Martin Hoy, M.D. Wendy Frances Hoy, C.N.S.
1997	チームケアと教育プログラム -聖クリストファーホスピスに学ぶ-	英	Irene Higginson, Ph.D. Penny Smith, R.N.
1998	臨死期のケアと遺族のケア -聖クリストファーホスピスとの交流-	英	Robert Dunlop, M.D. Barbara Monroe, M.S.W.
1999	終末期患者と家族への包括的ケア -カナダの緩和ケアプログラムに学ぶ-	カナダ	Anna M. Towers, M.D. Johanne de Montigny, Psychologist
2000	Palliative Care at the Bedside	豪	Kevin Yuen, M.D. Helen Walker, R.N.
2001	Hospice Palliative Care in Asia	シンガポール 香港	Rosalie Jean Shaw, M.D. R.N. Amy Y. M. Chow, M.S.W.
2002	ホスピス緩和ケア -過去・現在・未来-	米	William M. Lamers, Jr. M.D. Inge B. Corless, R.N., Ph.D., FAAN.
2003	ホスピス緩和ケアその実践と教育 -ニュージーランドとの交流-	NZ	Rod MacLeod, M.D. Gaye Robertson, R.N.
2004	ホスピス緩和ケア~私たちの進む道とは~ -英国・アイルランドとの交流-	英 アイルランド	Mari Lloyd-Williams, M.D. Philip J. Larkin, R.N., Ph.D.
2005	緩和ケアの可能性 - '特別な場所・対象' を越えて-	豪	David Currow, M.D. Meg Hegarty R.N., BN, MPH
2006	エンドオブライフケアと尊厳	カナダ	Harvey Max Chochinov, M.D. Ph.D. FRCPC Jill Taylor-Brown, M.S.W., R.S.W.
2007	ホスピス緩和ケア 東洋と西洋の対話 -スピリチュアリティと倫理に焦点をあてて-	シンガポール 英	Rosalie Jean Shaw, M.D. R.N. Verena Tschudin, R.N. Ph.D.
2008	エンドオブライフ(終末期)ケアの実践 -家族構成員に目を向けて-	英	Kay de Vries, R.N., Ph.D. Margaret Reith, M.S.W.
2009	緩和ケアにおける全体論 -人間性の複雑さに注目して-	英	Malcom Payne, BA, DipSS, PhD Debra Elizabeth Swann, M.D.
2010	ホスピス緩和ケアの提供とケアを提供する人々 -英国・カナダ・日本の交流-	英 カナダ	Bee Leng Wee, M.D. Beverly F. Spring, M.D.
2011	喪失と悲嘆 -喪失の悲しみ、苦難を越えて-	米 カナダ	Cynda Hylton Rushton, PhD, RN, FAAN Leora Kuttner, PhD, Psychologist
2012	なぜそうするのか? -緩和ケアにおける倫理とコミュニケーション-	米	Cynda Hylton Rushton, PhD, RN, FAAN Anthony Lee Back, M.D.
2013	意思決定の過程を支援する一倫理的課題に気づき、 いかにコミュニケーションをとるのか-	米	Cynda Hylton Rushton, PhD, RN, FAAN Anthony Lee Back, M.D.
2014	緩和ケア -続ける力 成長する力-	豪	Rosalie Jean Shaw, M.D. David Brumley, M.D.
2015	緩和ケアの再考と新たな挑戦 -英国・香港・日本の交流-	英 香港	Professor the Baroness Finlay of Llandaff Amy Y.M. Chow, Ph.D., R.S.W., F.T.
2016	喪失と悲嘆 -悲嘆ケアの専門家とともに考える-	ギリシャ 香港	Danai Papadatou, Ph.D., Psychologist Amy Y.M. Chow, Ph.D., R.S.W., F.T.
2017	アドバンス・ケア・プランニング -いのちの終わりについて話し合いを始める-	豪	Karen Detering, M.D. Josephine Clayton, M.D.
2018	アドバンス・ケア・プランニング Part II 生命を脅かす病と共に生きる人との対話 -実践を振り返り、次のステップへ-	米	Rachelle Bernacki, M.D. Elise C. Carey, M.D., FAAHPM, FACP



真夏のオーストラリアから来日した Currow 先生を迎えたのは雪景色のピースハウス



日野原先生の開会あいさつ



日本の現状をふまえて会を進めるファンリテーターの木澤先生



節分の日、Chochinov 先生、Brown 先生(カナダ)を歓迎する赤鬼



Rushton 先生、Back 先生(米国)と共に



懇親会で Shaw 先生(オーストラリア)と交流を深める



東日本大震災後のワークショップは講師(カナダ・米国)からの提案でテーマを「喪失と悲嘆」に変更



緩和ケアの挑戦を語る Finlay 先生(英国)

原氏(左から2番目)と川岸氏(左端)の素晴らしい通訳により講師と参加者がひとつになることができました



医師役の Bernacki 先生(米国/英語)と患者役の森先生(日本/日本語)のデモンストレーションを振り返る

ホスピスケアを受けるために

日野原記念ピースハウス病院は、主に治療が困難ながんの患者さんご家族に、ホスピス緩和ケアを提供する病院です。入院によるケアとともに、外来診療、また、訪問看護ステーションと協力して、在宅ホスピスケアに取り組んでいます。

ケア開始にあたり、ホスピス緩和ケアについてご理解頂くこと、患者さんの現在のご様子について事前に把握させて頂くため、患者さんご家族と面談の機会を設けております。

相談の窓口

当院では下記の相談について「相談室」を設けています。

1. 入院に関する相談
2. 外来診療や訪問診療に関する相談
3. ホスピスに関する一般的な相談など

0465-81-8900 (代)



相談に必要な医療情報

相談に来院して頂く際には、以下の3点の医療情報が必要です。

1. 診療情報提供書
2. 最近の検査データ（血液・尿検査、感染症・血液型を含む）
3. 現在の症状が分かるレントゲンやCTなどの画像情報

入院までの流れ

相談からケア開始までの流れは以下の通りです。

1. 電話による相談 0465-81-8900 (代)
担当窓口：相談室
受付時間：9時-17時
2. 来院相談
(見学と面談など)
3. ケア検討会議
(どのようなケアが適切かを検討します)
4. 検討結果のご連絡
5. ホスピスケアの開始
(外来・在宅・入院ケアなど)

日野原記念ピースハウス病院では病名告知は必須条件ではありません。患者さんが治療困難である病状であることを認識し、ホスピスの趣旨を理解されていれば、ピースハウスでのケアを受けることができます。

入院費用

医療費に関しては健康保険が適用されます。患者さんによって、高額療養費制度や高齢者医療制度が利用できます。また、保険適用外として、差額ベッド代があります。(4人部屋は差額ベッド代なし)

ピースハウスに関する情報はインターネットでもご覧いただけます

日野原記念ピースハウス病院

電話 0465-81-8900

FAX 0465-81-5525

<https://www.peacehouse.jp/>

ピースハウスホスピス教育研究所

電話 0465-81-8904

FAX 0465-81-5521

<https://education.peacehouse.jp/>

訪問看護ステーション中井

電話 0465-80-3980

FAX 0465-80-3979

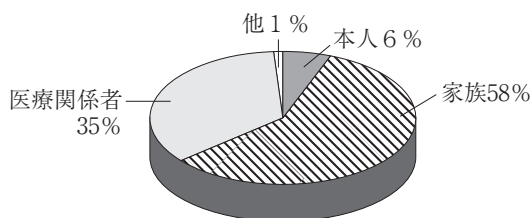
<https://stnakai.peacehouse.jp/>



ピースハウス活動報告 (2018年4月～12月)

相談状況

相談件数：411件



ピースハウス病院 入退院状況

- 入院患者数 175名 (延べ179名)
- 男女別 男94名 女81名
- 年齢 平均74歳
- 平均在院日数 26.5日
- 疾患 (悪性新生物原発部位 重複癌あり)

肺	56	前立腺	6	子宮	4
胃	19	乳房	6	卵巣	4
脾臓	14	肝臓	6	胆のう	4
咽頭	10	食道	6	腎臓	3
結腸	8	膀胱	5	他	18
直腸	7	大腸	4	計	180

(6) 紹介元医療機関

東海大学医学部附属病院	53
小田原市立病院	23
神奈川県立足柄上病院	13
東海大学医学部附属大磯病院	12
平塚市民病院	12
国立病院機構神奈川病院	10
平塚共済病院	10
神奈川県立がんセンター	6
秦野赤十字病院	5

〈以下1件〉

聖マリアンナ医科大学病院・横浜市立大学附属病院・他26施設 (順不同)

(7) 患者住所分布

神奈川県	170	東京都	4	他	1
				計	175

(8) 県内内訳

湘南西部		県西部		その他	
平塚市	36	小田原市	30	厚木市	6
秦野市	33	足柄上郡	15	横浜市	3
中郡	19	南足柄市	14	他	5
伊勢原市	2	足柄下郡	7	計	170

訪問看護ステーション中井

【訪問看護実績】

- 利用者数 77名
- 男女別 男36名 女41名
- 年齢 40歳代～90歳代 中央値82歳
- 介護度平均 要介護3
- 対象主疾患

	(名)	(%)
がん	18	23
非がん	59	77

(6) 転帰

	(名)	(%)
継続	53	69
終了	24	31

ピースハウス病院入院	4
他院入院	10
自宅で死亡	9
その他	1

【居宅介護実績】

- 利用者数 49名
- 年齢 40歳代～90歳代 中央値80歳
- 介護度平均 要介護2～3
- 対象主疾患

	(名)	(%)
がん	12	24
非がん	37	76

(5) 転帰

	(名)	(%)
継続	35	71
終了	14	39

ピースハウス病院入院	3
他院入院	6
自宅で死亡	4
その他	1

ホスピス教育研究所活動報告 (2018年4月1日～2019年3月31日)

1. 第26回ホスピス国際ワークショップの開催

期 日：2019年2月16日(土)・17日(日)
テ ー マ：アドバンス・ケア・プランニング Part II
生命を脅かす病と共に生きる人との対話
-実践を振り返り、次のステップへ-
講 師：Dr. Rachele Bernacki
(Dana-Farber Cancer Institute, USA)
Dr. Elise C. Carey (Mayo Clinic, USA)
ファシリテーター：木澤 義之(神戸大学大学院 医学研究科先端緩和医療学 特命教授)
森 雅紀(聖隷三方原病院 緩和ケアチーム 医師)
参加人数：86名



2. 人材育成講座の開催

【ホスピスセミナー】

- がん患者の不穏と抑うつをいかに理解し、支援していくか - 「年齢」と「認知機能」に焦点をあてて -
期 日：2018年10月20日(土) 参加数：37名
講 師：星山 有宏(北里大学病院 麻酔科、緩和ケア・ペインクリニック部門 助教)
- あなた自身のケアしていますか? - 死にゆく人と共にあるために -
期 日：2018年11月24日(土) 参加数：42名
講 師：高宮 有介(昭和大学医学部 医学教育推進室 教授)

【ホスピス緩和ケア講座】

■ ホスピス緩和ケアの基本を学ぶ

期 日：2018年6月19日、7月5日・24日、9月1日・13日・26日(計6日)

テ ー マ：1) がんの痛みの理解とマネジメント

2) 痛みのある患者の看護の実際

3) 消化器症状(嘔気・嘔吐)の理解とマネジメント

4) 食によせる思いを受けとめ支援する

5) がん終末期のせん妄の理解とマネジメント

6) せん妄のある患者の看護の実際

7) がんとともに生きる人々を支える

- 診断期、治療期、そして病状が進行したとき、患者、家族が直面する課題とその支援 -

8) ホスピス緩和ケア - 過ぎたるはなお及ばざるがごとし -

9) ホスピスで過ごす患者と家族のケア

10) ホスピスでの日々 - 家族の立場から -

11) 死亡前の兆候と苦痛の緩和

12) エンゼルケアの実際

13) ホスピス看護の物語り

- 講 師：1) 3) 5) 岩崎 誠(日野原記念ピースハウス病院 医師)
2) 石黒 恵美・高次 美香(日野原記念ピースハウス病院 がん性疼痛看護認定看護師)
4) 平野 真澄・宇賀 玲実(日野原記念ピースハウス病院 管理栄養士)
6) 赤丸 智子・臼井 珠美(日野原記念ピースハウス病院 看護師)
7) 風間 郁子(筑波大学附属病院緩和ケアセンター がん看護専門看護師)
8) 西立野 研二(日野原記念ピースハウス病院 院長)
9) 永田 浩子(日野原記念ピースハウス病院 緩和ケア認定看護師)
10) 佐藤 章子(ピースハウス家族の会 会長)
11) 山崎 和子(日野原記念ピースハウス病院 緩和ケア認定看護師)
12) 内田 真由美・小松 知子(日野原記念ピースハウス病院 看護師)
13) 桐ヶ谷 政美(日野原記念ピースハウス病院 がん性疼痛看護認定看護師)

延参加数：296名

■ ホスピス緩和ケアの実際を学ぶ

期 日：①10月23日～25日 ②11月6日～8日 ③11月13日～15日

内 容：ピースハウス病院におけるチームによるケアの実際を見学し、ホスピス緩和ケアを学ぶ

看護師実習（2日）、ボランティア実習1日、チームミーティング参加など
参加人数：8名

【ボランティア講座】

■ ボランティア養成講座

期 日：2018年5月～6月 参加人数：11名
講 師：西立野 研二（日野原記念ピースハウス病院 院長）他3名

■ ボランティアアドバンス講座

期 日：2018年4月20日、7月3日、2019年1月16日（計3回） 延参加数：82名
テ ー マ：1）ホスピスの療養環境 ー気になる庭の木や花を知ろうー
2）感染予防、痛みがある患者さんのベッド移動と車イス介助技術（演習 含）
3）「3.11東日本大震災」体験報告と災害時に備えた初期救急対応
4）特技ボランティア（理学療法、マッサージ）の活動、他
講 師：近藤 孫範（園芸ボランティア）、材木 徳子（日野原記念ピースハウス病院 看護師）他8名

3. 研修生の受け入れ

■ ホスピス体験実習

期 日：①7月23日～25日 ②7月26日～28日 ③7月30日～8月1日 ④8月2日～4日
参 加：麻布学園麻布高校（5）・秦野曾屋高校（4）（計9名）

4. 研究会の開催

■ 地域緩和ケア研究会 高齢者ケア部会：2018年6月・10月・2019年2月（計3回）

テ ー マ：1）事例検討：療養場所に関する意思決定支援について考える
2）これからの看取りのあり方とケアのネットワーク ー施設における看取りの実際から考えるー
3）「最期まで自分らしく過ごしたい」を支援する
ー病院・ホスピス・在宅・高齢者施設等、それぞれの特性と連携ー

担 当：1）山本 典子（訪問看護ステーション 看護師）
2）佐野 春樹、他（社会福祉法人一燈会 メゾン二宮）
3）名淵 貴志（ザ・中井プライム 管理者）、他

延参加人数：73名

5. オープンハウス（病院見学会）

開 催：2018年5月・6月・8月（計3回）
対 象：ホスピス緩和ケアに関心を持つ一般の方、医療福祉専門職 延参加人数：45名

6. ピースハウス見学への対応 15件 168名

団体名：中井町食生活改善推進協議会、平塚市金目地区社会福祉協議会、厚木市南毛利南地区地域福祉推進委員会、韓国 釜山カトリック大学、中国 医療介護運営グループ、英国 緩和ケア視察団、他

7. 遺族ケアに関するプログラム

■ お茶の会【病院主催】

開 催：2018年4月・5月・6月・7月・9月・11月・1月・3月（計8回）
延参加人数：遺族（含む家族会会員）38名、看護師17名、ボランティア16名、相談員7名

■ 「家族の会」小さな集まり

開 催：2018年9月20日、2019年3月11日（計2回）
延参加人数：23名

8. 機関誌発行

ピースハウス活動報告（ふれんず Issue No.24） 2,000部

ピースハウスを支える活動

◆ボランティアをする

あなたの大切な時間と能力を、より良いホスピスケアのために提供していただけませんか。

ピースハウスでは約80名のボランティアがチームケアの一員として活動しています。ボランティアをする方は、毎年開催されるボランティア養成講座を受講し修了証を手にしていただきます。

活動は、週1日（10：00～17：00）予め約束した曜日に無償で奉仕していただくことが原則です。

おもな活動内容

- 1) ホスピスにおける患者・家族の暮らしを支える活動
環境整備・看護補助・アートプログラム開催・
ティータイムサービスなど
- 2) 専門的にかかわる特技ボランティア
シャトルバス運転・理学療法・マッサージ・美容・
朗読・園芸・営繕・セラピー犬など



◆院外から支援する

あなたのあなたらしい方法でご支援いただけると幸いです。

ボランティアとして直接チームケアにはかかわれないが、外部から間接的に支援してくださるグループまたは個人の活動があります。



* LPC ホスピスサポートチーム

会員の寄付金やイベント、書籍販売などの収益金で院内アトリウムを整備。アトリウムは常に季節の花々でみたされ、ピースハウスで過ごす人々のところをいやしてくれています。

その他、ティータイムコンサート、ふれんずショップ（ボランティアショップ）への手作り品の提供、介護用古布の提供、イベントへの参加など、数え切れないほどの善意の方々やグループからご支援を頂いています。



ご支援のお願い

日野原記念ピースハウス病院は、ホスピスケアを専門とする独立型ホスピスです。病床数22床の小さな施設ですが、病院として機能する為には、施設設備・人材は病院と同様の基準を満たす必要があり、運営を継続するためには経済的負担が大きな課題です。

ケアを必要とする方々にホスピスケアを提供していくために、1人でも多くの方へホスピスケアを継続して提供できるように、皆様のご支援をお願い申し上げます。

1. 寄付の種類

1) 運営のための寄付

任意の金額を提供していただく方法です。皆様からのご寄付はピースハウスにおけるホスピスケアのために役立てられます。

2) 「ピースハウス友の会」

日野原記念ピースハウス病院の活動に賛同し、「友の会」の会員となって、年会費という形で継続的にご支援いただく方法です。会員としては、次の4種類があります。

さくら会員：1万円

ばら会員：3万円

はなみずき会員：5万円

かとれあ会員：10万円以上

* 1年にいちど、活動報告をお送りするとともに会員継続のご意向、会員種別の変更有無についてお伺いいたします。

2. 寄付の方法

ご寄付いただける場合は、下記までお振込みください。お手数ですが、振込みに際しましては、通信欄に「運営のための寄付」か「友の会 ○○会員」かをご記入ください。

郵便振替口座 00130-6-407939

加入者名 (財)ライフ・プランニング・センター ピースハウス募金口

【問い合わせ先】

担当：ボランティアコーディネーター 志村 靖雄

電話：0465-81-8900

E-mail：y-shimura@peacehouse.jp



収支報告 (2018年4月～12月)

4月から12月まで9か月間の入院患者延数は179名、平均在院患者数17.6人、平均ベッド稼働率79.8%でした。

事業収入	275,147 千円
事業支出	239,393
事業収支	35,754
会費・寄付金収入	3,870
当期収支(9ヶ月)	39,624 千円

寄付報告 (2018年4月～12月)

運営のためのご寄付	38件	2,400 千円
友の会会費	76件	1,470 千円
さくら会員	55件	550 千円
ばら会員	14件	420 千円
はなみずき会員	4件	200 千円
かとれあ会員	3件	300 千円
合計	114件	3,870 千円



一般財団法人
ライフ・プランニング・センター
日野原記念ピースハウス病院

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1
TEL 0465-81-8900 FAX 0465-81-5525
ホームページ <https://www.peacehouse.jp/>